

一ねっ



立教 189 年 こどもおぢばがえり

本年度のこどもおぢばがえりが賑やかに開催され、アメリカ・カナダ・ハワイ団は 7 月 24 日から 30 日にかけて参加しました。厳しい暑さの中ではありましたが、こどもたちは夏のおぢばを満喫しました。

9 頁に詳細、13-14 頁に写真

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.945

AUGUST

2026



TenrikyoAmericaCanada.org



つらつらせんがく 熟々浅学



— 八つのほこり（1） —

先月は、本部にてインターナショナルひのきしん隊、おやさと練成会、こどもおちばがえりが開催され、大勢の帰参者がありました。参加者、受講者、またスタッフの皆様は心よりお劳い申し上げます。誠に有難うございました。

今月 15 日には、アメリカ青年会総会が開催されます。一人でも多くの青年会員が参集してくれることを願っています。

さて、以前（2025 年）、アメリカ婦人会の依頼で「みちのだい育み塾」で「八つのほこり」について話したことがあります。その時の原稿を元に、これから数ヶ月に亘って「熟々浅学」を書いてゆきたいと思っています。

尚、これから書く内容は、私の悟りを含めて思うところを書きますので、間違ったことを書いていないとは思いますが、内容がまったく正しいという保証はありません。読者の皆さんの参考になればという程度のスタンスで書いてゆきますし、口語調のところもあると思いますので、ご容赦ください。それらを承知の上で読んでいただきたいと思います。

「八つのほこり」は、「かしの・かりもの」の教理と共に天理教の基本教理と言え、にをいがけの時や天理教の教えに初めて触れる人に話すことが多いと思います。

かつて別席を受ける前に「初試験」がありました。その試験を受ける人は「身の内十全のご守護」の説き分けと「八つのほこり」を諳んじて言えなければならなかったと聞いています。この「初試験」は昭和 23 年（1948 年）頃まで行われていたようですが、これに合格しなけ

れば別席を運ぶことができませんでした。つまり、「初試験」は、現在の別席制度の「お誓い」に相当すると言えますが、「初試験」の方がもっと厳格だったと思います。

本来「お誓い」も諳んじて言えることが大切だと思うのです。その観点から、別席を勧める前に、導く人がしっかりと「お誓い」とは何なのか、「お誓い」をするとはどういうことなのかなど、「お誓い」を受ける意味・意義を説明し、受ける本人にしっかりと納得してもらうことが大切だと思うのです。そして、その後の「別席」を運ぶ意味や、おさづけの理を拝戴してよふぼくになる意味・意義をしっかりと理解してもらうことも大切です。

以前にも書いたと思いますが、シンガポール出張所長時代に「おやさとツアー」というおちばがえりを計画し、実施していました。出張所の信者さんや出張所運営の日本語教室の生徒たちに声をかけ、10 人以上の参加者を集めて、おちばがえりをプログラムのメインに据え、その他に日本国内の観光を入れて、10 日から 2 週間のツアーを行なっていました。おちばがえり中は、月次祭や朝夕のおつとめの参拝はもちろんのことでしたが、別席も運んでもらっていました。

ご存知のように、海外在住者は一度の帰参で、中休みを入れれば、10 日ほどの帰参期間でもおさづけの理の拝戴が可能です。しかし、それではおさづけの理の有難さやよふぼくになることの意義などを心に治めてもらうことが出来難いと思って、1 回のおやさとツアーでは別席は

2回まで運ぶことにしていました。

日本語教室の参加者にはツアー実施前に出張所に来てもらって、ツアー日程を含め、別席や「お誓い」についての説明会を行っていました。

ある時の説明会で「お誓い」が書かれてある紙を渡して読んでもらったところ、一人の女性が「私にはこれはできません」と言われたのです。その女性は他宗教の熱心な信者で、「お誓い」をすることは天理教への入信になるので、それはできないということでした。

おやさとツアーでは参加者に別席を運んでもらうことを目的の一つとしていましたので、一人だけ別席を運ばなくてもよいという訳にもいかず、結局、その女性にはツアー参加を辞退してもらいました。

このような「お誓い」ですから、別席を運ぶ人には、事前にしっかりと説明して、納得してもらおうことが肝心だと思うのです。

さて、話がちょっと逸れましたので戻します。教祖が、何故「八つのほこり」の教理を教えてくださいましたのかを確認したいと思います。

「親神様は理の取り間違いを、わかりやすく埃に譬えておさとし下されます。」と別席のお話にあります。

「理」とは簡単に言えば「親神様のお働き、教え」と言えます。つまり、親神様のお働き、教えを間違いなく理解するため、心に治めるための一つの手立てとして「八つのほこり」を教えてくださいましたという意味だと思うのです。

少し横道に逸れるような話をします。

私は天理中学校（以下、天中）出身者ですが、当時、天中では10月末に学年別クラス対抗の合唱コンクールが行われていました（今も行われているのかは知りません）。そのため2学期の音楽の時間では合唱練習が始まります。

ある時、出だしの音だけを聴いて、ピアノの伴奏なしで歌わされ、歌い終わった時に、本来終わるべき音を聴かされた時、とても低い音程で歌い終わっていたことがありました。つまり、合唱中に段々と音程が下がっていたのです。生徒たちは歌手ではありませんので、合唱練習中にどうしても音程がズれていくのです。

ピアノ伴奏があるのは、本来の音程から狂わないようにすることも目的の一つであると思うのです。つまり、ピアノ演奏による音程の基準があって、それによって音程が外れないようにしているという意味です。

「八つのほこり」の教えを教えてくださいましたのは、このことと同様だと思うのです。私たちの心が親神様の思召からズレないように、また、ズレが生じた時に修正できるように「八つのほこり」を教えてくださいましたと思うのです。

稿本天理教教祖伝逸話篇「天の定規」（31）のお話があります。

教祖が飯降伊蔵先生に「山から一本の木を切ってきて来て、真っ直ぐな柱を作ってみて下され」と仰せられました。そこで、飯降先生は真っ直ぐな柱を一本作られたのですが、それに定規を当てて「隙」がないかを確認するように教祖は仰せられたのです。飯降先生が定規を当てられると確かに「隙」があり、そのように答えられると教祖は、

その通り、世界の人が皆、真っ直ぐやと思っている事でも、天の定規にあてたら、皆、狂いがありますのやで。と仰せられました。

私たちは何か基準がないと、親神様の思召や信仰からズれてしまうことがあると思うのです。そうならないように、また、ズレた時にズレを正すことができるように、この教理を教えてくださいましたと思うのです。

そして、ただ単に「ほこり」の教えを漠然と伝えてくださっているのではなく、もう少し具体的に分かりやすいように、どのような心遣いが親神様の思召から離れてしまうのかを理解しやすくするために「八つのほこり」として教えてくださいましたのではないかと推察するのです。

（続く）

深谷 洋

立教189年7月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、紋型ないところから、陽気ぐらしを楽しみに、この世人間をお造りくだされ、限りなき御守護とだんだんのお仕込みにより、只管に私共の成人をお促しお育てくださいます親心の程は、誠に勿体なく有難い極みでございます。私共は及ばぬながらも常にひながたを頼りに、思召にお応えさせていただけるよう、日々たすけの御用に勇んでつとめさせていただいております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の七月月次祭を執り行う日柄でございますので、只今より、ぐばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみによふぼく、信者一同が参集し、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、勇んでお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

現在、おちばにて青年会インターナショナルひのきしん隊とおやさと練成会が行われており、また月末には、少年会アメリカ団がこどもおちばがえりに参加しますが、それぞれの参加者たちを無事にお連れ通りくださいますようお願い申し上げます。

また、来月十五日には、アメリカ青年会が総会を開催しますが、大勢の青年会員たちが参集し、あらきとうりようとしての本分を活かして、更に会活動を活発に推進する契機となりますようお導きの程をお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭を終えてから半年となりました時旬に、真柱様が「たすけ一条 つとめ一条」に込められた思いに沿った活動を目指して、成人の道を歩みたいと存じます。また、世界にお見せくださる戦争、紛争、自然災害などを鑑みて、親神様の思召を探究しながら、御教えを弘め、更には次世代に道を繋げる所存でございます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいます、一日でも早く、世界一れつが互いにたすけ合って暮らせる陽気ぐらしの世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

7 月 月次祭神殿講話

ノウスアメリカ教会長

北井 則子

只今は、庁長先生、奥様を芯に7月の月次祭を陽気につとめさせて頂きました事大変うれしく思います。今月の神殿講話のご命を頂きましたので 暫くの間お付き合い下さいませようお願いいたします。

私は、今年渡米をしてから3回目の年祭を迎えさせて頂きました。年祭はご存命でおはたらき下さいます教祖に心の成人した姿をご覧頂きお喜び頂く旬とお聞かせいただいております。そして年祭活動の旬はそれまでの目標に更なる歩みをさせて頂く期間ともお聞かせいただいております。

私は今日までの年祭に向かう旬に心の成人の鈍い自分勝手な心使いで親神様の親心を感じることなく歩んできました。しかし親神様は何時も温かくお見守り下さいました。そんな今日までの私の成人の鈍い歩みをお話し更なる塚に向かう自身の目標を定めたいと思います。

私は結婚してから渡米をするまで、主人の母が詰所主任をしていましたので帰参された方々のお世話を何時もさせて頂いておりました。帰参されるのは年に2回ほどですが、アメリカからの長い滞在の期間中には色々な様子を聞かせて頂きました。そんな事から遠く離れた教会に参拝することはありませんでしたが、アメリカとの距離をあまり感じませんでした。

3人の子供をお与えいただき気持ちも落ち着いたころの2002年、叔父である東田国雄三代会長のお出直しの知らせがありました。

私は四代会長となられる東田美智子会長の、



少しでも支えとなる事が出来たらとの思いで、主人の心配もよそに、その年の教祖120年祭の年祭活動三年千日打ち出しの日にノウスアメリカ教会の部内会長のお許しを頂き、翌年3月にビザを取得し単身渡米を致しました。

もちろんこの時の事情もあり、夫婦での渡米には無理がありましたが、神様の目からすれば私のたんのうに心得ちがいがあったのでしょう。後に色々な事情をお見せいただく事になるとは思ってもいませんでした。

渡米後は上級ノウスアメリカ教会から約10か月、通い会長としてつとめさせて頂きました。前会長さんの代からの信者さんに迎えられ、自教会でも未熟な私をたすけて頂き有難い限りでした。生活にも慣れたころ、ビザの更新の時期が来ましたが、その当時の事情で、私には更新が出来ない事がわかりました。その当時は、海外部でビザのお世話をして下さいましたので大変ご苦勞をおかけしたことを覚えています。

ビザの期限も残り数か月、翌年1月教祖120年祭に帰らせて頂きましたが、心は晴れず教祖にお喜び頂く事も出来ませんでした。残された期限内に、心の晴れないまま再渡米

しましたが、奇跡的にも空港イミグレーションで3年のビザを頂く事が出来たのです。こんなに嬉しいことはありません。大きな御守護を頂きました。しかし期限の3年もあっという間に過ぎ、この間に永住権の申請もしましたが失敗致しました。

そして2009年ビザの失効により帰国致しました。1年後には新しいビザの申請が進められると聞いていましたが、それも中々進まず4年半が過ぎました。この間に私は仕事を見つけ働き始めていました。万が一もう渡米する事が出来ないのであればと、先のことを考えながらも欲の心も十分働き、「デイサービス」と言う介護の仕事を始めてました。

利用者さんを迎えに行き、お風呂の介助などしながら一日を楽しんで帰って頂く仕事です。利用者さんのほとんどは認知症の方で、毎日同じストーリーを聞かせてもらう忍耐力というか、人の話を聞く心を身につけられたようにも思います。有難い経験でもありました。

仕事にも慣れ2年程経った頃です。申請が進まなかった理由、親神様の深い思惑によりやくこの頃になって気づかされました。それは主人の定年退職でした。親神様は次は夫婦共での渡米、夫婦でこれからは心を合わせて御用をさせてやろうと待ち望んでおられたのです。私たちの心が定まり、それからビザの手続きは驚くほどに進み、教祖130年祭の年祭活動1年目に夫婦で再渡米を致しました。3年後には待ち望んでいた永住権も取得する事が出来ました。私にとっては15年目の取得です。

渡米後私達は信者さんから、また仕事を通して様々な方との繋がりや、おたすけをさせて頂く機会を頂き、ノウスアメリカ教会も代務者上村雄郎会長家族を迎え、今までなかった子供の声が聞こえる賑やかな月次祭をつとめさせて頂く事が出来ました。

そんな日常の中で田舎の教会生活にも慣れた頃です。何時頃からか記憶にありませんが、時折流れる重い空気のようなものを感じる時



がありました。それは流れては消える、消えてはまた流れる空気。ノウスアメリカ教会の次期会長という信じがたい空気でした。しかし、代務者上村会長御家族の本部帰国の御命で、重い空気一気に押しつぶされそうになりました。親の声を素直に受けさせて頂かねばならないのですが、私には荷が重すぎ素直にはなれませんでした。

部内からの名称の理を消さないでほしいとの強い思いもありましたが、私は何とか逃げ切ることが出来ないものかとも考えていました。

話は前後しますが、私は信仰3代目の父と、信仰初代の母との長女として生まれました。父は幼くして母が出直し祖父母に引き取られ、両親の顔も知らずに育ちました。そんな辛い思いをして育った父がよく口にした言葉があります。「今さえ良くばは、あかん」。それは、私がその時逃れの言い訳やうそをついた時によく言われました。そして、「今言うた言葉、行動が、明日、1週間先どうなるかよう考えや」とも言われました。

私は、この父のその時の言葉を思い出しました。そして孫の顔が浮かび、もし教会の名称が無くなれば、親をなくすのと同じことだとも思いました。それから少しずつ心が晴れてきたように思います。

おさしづに、

さあ／＼心うとうしいてはどもならん。うとうしい日には何をすれども速やかなることは出けん。この理を一つ聞き分け／＼／＼。又晴天の心を以て何事もすれば、晴天というものは何をすれども、速やかな事が出けるものである。世界中曇りなければ気も晴れる。速やかなものである。(明治21年8月9日)

それから数週間後に心を定めお返事させて頂きました。

翌年、140年祭活動1年目の7月に5代会長のお許しを頂戴しました。同時に本部直属から伝道庁所属教会として新たなスタートをさせて頂き、これも私にとっては大きな荷を軽くしてくださった御守護と感じました。年祭活動期間中には数々の事情をお見せいただきましたが、すぐそばには、ご相談できる親、庁長先生、同じ所属教会の弓削会長さんの存在は大きな心の支えになり、140年祭は一手一つに喜び心で迎えさせて頂く事が出来ました。

さて、年祭は終わりました。真柱様は年祭のご挨拶の最後に、「3年間の努力の上に立った新たな歩みを続け勇んで歩み続けてほしい」とお話くださいました。また、「次なる塚への歩みだしに際して」の中田表統領先生のインタビュー中で、「今後の目標として10年先お預かりしている教会の姿を思い描き、今後どのように進めて行くかを思案し取り組んでほしい」と具体的にお話してくださいました。私は来年70歳になります。これからの10年を思い描けば自分自身の存在が心配になってきます。

教会にとって一番大きな目標は次の代へのバトンタッチです。こればかりはのんびりしてられません。一年一年を大切に歩ませて頂かねばならないと思っています。教祖150年祭の年祭活動1年目(2033年)に、ノウスアメリカ教会は100周年を迎えさせていただきます。教会には古い書物や家具などと共にそこに新しい物が何の違和感もなくうまく調和されています。この100年の歴史に先代

のご苦労、元一日を忘れることなく新しい物との調和を取りつつ歩ませて頂き、一手一つの心で部内共々と100周年を迎え、教祖に先代にお喜び頂きたいと思っています。

おさしづに、

さあをやの道を通りながら、をやの道の理が分からん。古き道があるから新しい道がある。古き道はをや。新しき道は子という。さあ／＼だん／＼に新しい道を通ろうとするで、古き道が忘れる。よう聞き分け。古き道があるで新しい道という。古き道は埋めて了う。(明治22年10月9日)

親があって子がある、古い道があって今の新しい道を結構に通らせて頂いています。このことを忘れず歩ませて頂きたいと思ひます

本日はご清聴ありがとうございました。



みちのだい育み塾

～語り合い、学び合い、心を育むひと時を～

開催日時: 10月17日(土) 午後1時～3時30分

場所: 伝道庁 MP ホール2階会議室

対象: 16～49歳の会員

主旨: 教えを正しく学び身につける

内容: 講話「おつとめ」- 講話だけでは
どなたでも(男性も)拝聴可能
対象外の方は申し込み不要

グループワーク

リフレッシュメント

講師: 深谷洋庁長(日本語)
木村昌人主事(英語)

※1～12歳の託児有り
申し込みの詳細は各地区責任者にお尋ね下さい。
一人でもおおくの方のご参加をお待ちしています!

天理教アメリカ婦人会



伝道庁連絡



7 月 月次祭

祭主 庁長
 扈者 雪本 善 増野大励
 賛者 武本エディ 上杉浩司
 指図方 中富淳次郎
 神殿講話 北井則子（日）

天理教語学院（TLI）日本語科出願

出願資格：次の条件（教育課程、日本語能力）をいずれも満たしていること

1. 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者
2. 出願時に「日本語能力試験 N5」または「N5 相当」の日本語能力を有する者

出願に必要な書類として願書と共に日本語能力試験 N5 の合格証明書が必要となります。

- ・ TLI では、日本語能力 N5 以上を有しない出願予定者に対し、出願前の 5 月から日本語科が提案する教材を用いた自習機会を設けていますが、8 月 1 日～ 31 日までに出願者全員がオンラインで受験が必要です。
- ・ 実力認定試験の結果、TLI が N5 相当の日本語能力があると認定した場合に出願を受理する形とし、出願自体を妨げないように便宜を図る予定です。

願書の配布について：

- ・ 願書は 4 月 25 日よりダウンロード配布が開始されています。同時に、事前学習及び実力認定試験に関する案内も行っています。

出願締切：9 月 28 日

詳細は、以下のサイトをご確認ください。

https://kaigai.tenrikyo.or.jp/tli/top/?page_id=497

天理教語学院（TLI）おやさとふせこみ科出願

出願資格：次の条件（教育課程、立場、日本語能力、進路）をいずれも満たしていること

1. 本国で正規の課程による 12 年以上の学校教育、またはそれに準ずる課程を修了した者
2. 海外の教会長・布教所長の子弟、またはそれに準ずる者で、入学時に「ようばく」の者
3. 本校日本語科卒業 / 卒業見込み、または日本国籍を有する者で、入学時に「日本語能力試験 N3」相当以上の日本語力を有する者。または、日本国外からの直接出願者（日本国籍保持者は除く）の場合、「日本語能力試験 N2」以上の日本語力を有する者
4. 卒業後、将来本国において布教伝道に従事する予定の者

出願書類：天理教語学院事務所で頒布（1 部 500 円）

出願期間：2026 年 10 月 1 日～ 10 月 31 日

修養科スペイン語クラスについて

9 月 1 日から 11 月 27 日まで、修養科スペイン語ク

ラスがおぢばにて開講されることになりましたので、お知らせします。日本国査証の必要な志願者は、お早めに伝道庁にお知らせください。

教人資格講習会

本年は、英語クラスが設けられることになりました。

教会長資格検定講習会

例年 9 月 27 日から、5 名以上の受講者がいる場合に開講している教会長資格検定講習会英語クラスの日程が変更され、本年より 10 月 27 日から開講することになりました。受講予定者は 9 月末までに、アメリカ伝道庁までご連絡下さい。

秋季霊祭

9 月 19 日（土）午後 7 時より秋季霊祭を執り行います。今回は、福井陽一主事・ニューヨークセンター 8 代所長・ニューヨーク富中布教所初代所長の霊様を合祀致します。

各 会 連 絡

布教委員会

・教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番をおつとめ頂き、有難うございます。以下に 10 月までの当番をお知らせ致します。

9 月：上杉浩司、田所レイ

10 月：平井信乃、小島ブライアン

・10 月より、伝道庁月次祭前日の土曜日、午後 1 時から 1 時間、伝道庁周辺でのにをいがけを実施させていただきます。行事との兼ね合いから、にをいがけ実施月は、1 月、3 月、4 月、7 月、10 月 12 月の予定です。一人でも多くの方にご参加頂きますよう、予めご案内いたします。

教化育成委員会

・おやさと練成会に参加した 6 名の学生は、中川洋一氏のサポートのもと無事に別席を運び終え、7 月 20 日におさづけの理を拝戴し、コースも無事に修了しました。その後、3 名の学生はそのまま少年ひのきしん隊やこどもおぢばがえりのひのきしんに参加しました。カウンセラーを務めてくださった岩清水峻氏にも御礼申し上げます。

15 頁に写真。

・11 月 14 日午前 10 時 30 分～午後 4 時まで、アメリカ伝道庁にて SoulFire を開催予定です。今回のテーマは「信仰に力を注ぎ、コミュニティの絆を強めよう」です。日英両方の教友を対象に行い、申込みは 8 月 1 日に受付を開始しています。

広報委員会

・各地で活動されている方々の情報を「陽気ぐらしだより / Joyous Life Here & There」として「一れつ・ニュースレター」に掲載し、管内の皆様と共有させていただきます。つきましては、各

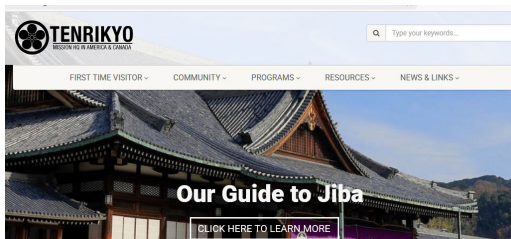
教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願いします。

情報提供先

川上 (kamishuyo@hotmail.com)

林 (takhayashi@gmail.com)

- ・伝道庁ホームページは、管内の皆様にご活用いただけるように作成し、常にアップデートを努めており、「Our Guide to Jiba」が更にアップデートされております。また、「にをいがけ用パンフレット」(海外部サイトより)に[Resources]-[Publications]からアクセスできるようにしております。是非、伝道庁ホームページ をご覧頂き、また周りの方々にも紹介いただきますようお願い致します。



翻訳委員会

- ・通訳者ワークショップを、9月19日(土)午後1時～3時の予定で開催致します。オンラインでの参加も可能ですので、興味がある方は岡崎宏子 (hirokookazaki4@gmail.com) までご連絡ください。

Future Path

8～10月の期間で、17歳～40歳を対象にディスカッションを行います。このディスカッションは、主に対象年齢の参加者が天理教組織に思うことや、心を育てる上で求めている事などの意見や感想を集めるために実施します。参加に興味がある方、もしくは参加指名をされたい方がおられましたら、その方々の氏名とメールアドレスを、雪本善までお送りください。

tenrikyoprograms@gmail.com

婦人会

- ・サンフランシスコ地区婦人会総会
2026年8月29日(土)午前10時
於：マリーナ教会
- ・シカゴ地区婦人会総会
2026年8月30日(日)午前10時30分
於：ミッドウエスト教会
- ・ニューヨーク地区婦人会総会
2026年10月3日(土)午後1時
於：ニューヨークセンター
- ・「みちのだい育み塾」
10月17日(土)午後1時～3時30分
於：伝道庁MPホール2階
内容：講話「おつとめ」、グルーブトーク、

リフレッシュメント

講師：深谷洋 庁長(日本語)

木村昌人 主事(英語)

お申込みは、地区責任者にお尋ね下さい

締切り-10月3日(土)

- ・「第31回女子青年大会」

11月1日(日)午前10時 於：本部中庭

*飛行機代の助成有り

前日の夕づとめ後：模擬店「おやさとマルシェ」

当日の午後：「支部の集い」



少年会

- ・アメリカ・カナダ・ハワイ団のこどもおぢばがえり・海外少年ひのきしん隊が7月24日(少ひは25日)から30日まで開催されました。アメリカ・カナダからはジェネラルグループに98名、少年ひのきしん隊に20名(カウンセラー11名)が参加。おぢばでのひのきしん、仕込み行事、お楽しみ行事を通して教友との絆を深める事ができました。また来年も大勢で帰参し、親神様、教祖にお喜びいただきましょう。

青年会

- ・第100回青年会総会が、10月27日(火)午前10時より、教会本部中庭にて開催されます。参加されます方は、以下にご連絡をお願いします。
TYMANA: seinenkainorthamerica@gmail.com

NY センター

- ・8/22 ニューヨーク地区少年会お泊まり会
- ・8/23 ニューヨーク地区少年会おつとめまなび総会
- ・9/6 故福井陽一所長のメモリアルギャザリング
(ニューヨークセンター9月次祭祭典後)

お詫びと訂正

『一れつ』6月号・7月号の伝道庁連絡欄「月次祭祭儀役割」において、祭主を「田中知義」と記載しておりましたが、正しくは「庁長」でした。お詫びして訂正いたします。

修養科英語クラス

本年3月末からおぢばにて開講された修養科英語クラスでは、ブラザーフッド教会の、森下ケイ全会長が一期講師としてつとめられました。また管内からも数名の方が受講されました。今月は一期講師としてつとめられた森下ケイ前会長、また現在ニューヨークセンターに勤務されている Gavin Damron さんに、おぢばで過ごされた三ヶ月間について感想を伺いました。

教祖 140 年祭の年に修養科の講師をつとめての所感

森下 ケイ



2025 年、私はアメリカ伝道庁長より、今年の「修養科」の講師を務めるよう依頼を受けました。担当したのは「教祖伝」を教えることでした。2026 年に私達の信仰上の重要な節目である 140 年祭を迎えるにあたり、この大役を任されたことを大変光栄に思いました。教祖やその教えについて 3 ヶ月間教える機会に恵まれるとは、これまでの人生で想像もしなかったことでした。

今振り返ると、この経験は私の人生における最大の恵みの一つとなりました。最初の恵みは、他の講師や補佐の方々と共に働けたことです。今年の修養科は 13 の教室で開講され、計 26 名の講師と補佐が協力して務めました。それぞれ異なる背景や経験を持っていましたが、140 年祭に向けて、縁と因縁によって引き合わされたのだと感じています。彼ら一人ひとりと出会えたことを、親神様に感謝しています。彼らの献身的な姿勢、誠実さ、そして教えに対する真摯な取り組みに、私は大いに感銘

を受けました。対話や交流、そして共に務める中で、私自身の信仰も深まり、生涯大切にしたい友情を築くことができました。

私の担当する教室には、世界各地から集まった 11 名の素晴らしい修養科生がいました。フィリピン、ケニア、ブラジル、そしてハワイを含む米国など、様々な地域からの受講生がいました。年齢層も幅広く、20 代から 70 代の方々までが共に学びました。特に印象深かったのは、皆が自然に支え合い、共に成長することに深い感謝の念を抱いていたことです。修養科生同士が励まし合い、共に成長していく姿を見守ることは、この経験における大きな喜びの一つとなりました。何人かの修養科生が、「教祖伝」の授業が楽しかったと言い、もっと教えてほしいと励ましてくれたことは、私の心に深く響きました。親神様の御守護によって、3 ヶ月間教える機会をいただいたことは、本当に不思議でありたいことだと感じています。受講生の協力や思いやりの心から、私自身も信仰について多くのことを学ばせていただきました。

日本での生活において、もう一つ思いがけない恩恵や喜びとなったのは、心身にもたらされた良い影響でした。天理に到着して以来、私はほぼ毎日 2 万歩から 2 万 5 千歩、距離にして最大で約 10 マイルもの道のりを歩いてきました。この 3 ヶ月間で、歩いた距離はおよそ 900 マイルにのぼると推定されます。こうした日々の歩行は、健康を増進させ、心をすっきりとさ

せるとともに、自分自身を振り返り、祈りを捧げる時間をもたしらしてくれました。「かしもの・かりもの」の教えを心に留めながら、私は深い感謝の念を抱いて過ごすことができました。幸いなことに、私の周りには温かい友人たちがいて、果物やジュース、体に良いおやつ、そして心のこもった贈り物などで私を気遣ってくれました。彼らの優しさに触れるたび、神の愛とはしばしば他者の寛大さを通して示されるものであり、決して欠乏を感じるようなものではないのだと実感させられます。

今、私は人々の助けとなり、教えを分かち合うことに時間を捧げたいという意欲を強く感じています。この3ヶ月間を経て、私は自らの目的意識を新たにし、これからの未来に広がる可能性に対して新たな感謝の念を抱くようになりました。また、この修養科のスタッフや運営関係者の皆様にも、心より感謝申し上げます。講義は入念に準備されており、提供された教材は指導を行う上で確固たる基盤となりました。

この講座を通じて私が深く学んだこと、それは信仰の確固たる土台を築くことの重要性です。私は長年にわたり、親神様への信頼を深め、教えに沿って生きるよう努めてきました。神の采配（さいはい）や救済、そして思いがけない恵みといった数え切れないほどの体験を通して、私の信仰はより強固なものとなってきました。この教えこそ、私が修養科生の皆さんと分かち合いたいと願ってきたことの一つです。信仰とは単に信じることではなく、日々の実践そのものです。ひのきしん、親切、感謝、そして誠実な努力を通じて、私たちは自分自身や他者の人生に神の恵みが働くための機会を創り出すのです。おやさまは、誠の心で他者に尽くし続けられ、自然と恵みがもたらされると教えてくださっています。

この3ヶ月間の指導を振り返ると、私の心は感謝の念で満たされます。このような機会をくださった親神様とおやさまに、共に歩んでくださった講師やアシスタントの皆様、私に多くの気づきを与えてくれた修養科生の皆さんに、そしてその過程で学んだすべての教訓に、心から感謝しています。未来はまだ白紙ですが、今の私には新たな希望と自信があります。親神様とおやさまは、私たちには見えない遥か先まで見通しておられます。信仰とおつとめ、そして誠の心をもって種を蒔き続けるならば、陽気ぐらしの世界が私たちの目の前に広がっていくことでしょう。この3ヶ月間で学んだことを人生の次の章へと活かし、感謝と献身、そして喜びの心を持って奉仕し続けられるよう祈っています。

本当にありがとうございました。



修養科を受講して

ギャビン ダムロン

皆さん、こんにちは。

私は現在、ニューヨーク市の天理文化協会（Tenri Cultural Institute）で生活し、働いています。同協会は、日本語学校、アートギャラリー、音楽ホールなどを運営していることでよく知られています。本日は、「おちば」で3ヶ月間行われる修養科を受講して感じたことや、その体験についてお話ししたいと思います。

私は約20年前、20代の頃に一度修養科を受講しました。当時は非常に素晴らしい体験ができ、その3ヶ月間には多くの楽しい思い出があります。

その後、個人的な事情もあり、再び修養科を受講するよう勧められました。中年の大人として改めて受講してみると、初回とは全く異なる体験となりました。

『教祖伝』や『天理教教典』を読み直したことは、私の信仰に深い影響を与えました。また、『おさしづ』や『教祖伝逸話篇』といった書物も、私の心に深く響きました。先人たちの生涯と献身的な姿について学ぶことは、私の信仰を強め、親神様への信頼を深める助けとなりました。

多くの修養科生と同様に、私も最初の2ヶ月間は日々の生活リズムに慣れるのに苦労しました。しかし、多くの方々の親切、励まし、そして支えのおかげで、私の修養科での体験は真に有意義で素晴らしいものとなりました。人と人との真のつながりには、互いを励まし、心を高め合う力があることを改めて実感しました。

日々のひのきしんや講義への参加を通じて、心身の健康も向上しました。こうした経験は、教えを実践しながらバランスの取れた生活を送ることの大切さを教えてくれました。

修養科への参加は、私の人生を変えただけでなく、信仰を新たにし、天理教の信仰者であることへの感謝の念を深めるものとなりました。ニューヨークに戻ったら、周囲の人々に良い影響を与えられる存在になりたいと思っています。また、機会があるごとにひのきしんや布教活動にも積極的に取り組んでいくつもりです。

修養科での期間中、私を支えてくださったすべての皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



信仰に活力を、
コミュニティに英気を



SOULFIRE

TENRIKYO FAITH GATHERING

受付はこちらから！



2026年11月14日

10:30 AM – 16:00 PM

託児は用意させていただきます

一部のワークショップには日英の通訳を提供しますので、日本語の方もぜひご参加を！



@tenrikyo.faith.conference



<https://tenrikyoamericacanada.org/tfc>



www.facebook.com/soulfiretfc/

立教 189 年 ともおちばがえり



青年会インターナショナルひのきしん隊

7月18日から24日にかけて、天理教青年会は「インターナショナルひのきしん隊」をおちばで実施しました。

教祖140年祭の年にあたる今年、アメリカおよびカナダ各地から26名の青年会員とOBが集い、親里でひのきしんに励みました。活動内容には、草刈りや溝掘りのほか、こどもおちばがえり行事の準備に向けたさまざまな作業が含まれていました。

ぜひ、あらきとうりょうの活躍の様子を写真でご覧ください！



立教 189 年おやさと練成会



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

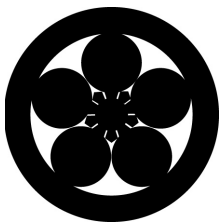
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all human-kind. God the Parent is God of original and God in Truth-who created thi world and has nurtured and protected us ever since.

God the Parent created human beings so that by seeing us lead the Joyous Life, God could share in our joy. Leading the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children; thus we should realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that we borrow from God the Parent and only our minds truly belong to us; further, through the proper use of our minds, we will be able to lead the Joyous Life.